

地方独立行政法人桑名市総合医療センターの概況

1 地域周産期母子医療センターに認定された際の運営方針案

県境の二次医療圏である桑員地区のハイリスク症例の、特に Code A となる緊急帝王切開に応需するなどの救急対応について、他地域に依存する事なくまず当院で受け入れ診療を行います。

桑員地区や近隣の医療圏にある他の分娩取扱施設より発生した、ハイリスク妊婦の外来紹介、母体搬送、新生児搬送を受け入れ入院診療を行います。

一方、当院は地域の小児科入院センターでもあるため、小児症例の二次医療と入院診療を同時に行わなければなりません。また院内に心臓血管外科医・小児外科医が不在です。そのため長期に重症管理を必要とする未熟性の強い症例(在胎 30 週未満の早産児)や外科治療を要する症例は、他の総合周産期母子医療センターと連携を進め急性期の治療を依頼します。

また、病状が安定して以降の診療は戻り搬送を受け入れる事で、高次施設の病床運営に寄与し、患者家族には自宅近くの施設で退院準備を進め退院後の外来診療も当科で継続して診療する事ができます。そのためにも NICU 病床だけでなく GCU 病床の運営を開始したいと考えます。

2 施設整備や職員体制について

「周産期医療の体制構築に係る指針」で必要とされる設備、施設は、基本的には全て揃っています。

小児科医師の連日の宿直体制については、令和 4 年 4 月に常勤医師が増員となり体制整備され、令和 4 年 4 月 8 日以降は連日小児科医師の日直、宿直を維持しています。

① 施設設備の状況

周産期母子医療センターの認定要件	当院	装置・器具の名称等
緊急帝王切開術等の実施に必要な医療機器	有り	吸引分娩器 1 台
分娩監視装置	有り	アトムメディカル 15 台
超音波診断装置（カラードップラー機能を有するものに限る。）	有り	GE1 台、日立 1 台
微量輸液装置	有り	テルモ TE-SS800、TE-LM800 シリンジポンプ 26 台、輸液ポンプ 5 台
新生児病室及びNICU	有り	(注)を参照
新生児用呼吸循環監視装置	有り	日本光電 Lite Scope シーリング 6 台、スタンド 4 台

新生児用人工換気装置	有り	日本光電 ハミング×3台、ハミングヴェー1台
保育器	有り	開放型9台、閉鎖型13台、搬送2台
その他産科医療及び新生児集中治療に必要な設備	有り	人工呼吸装置 サイパップ4台、 光線療法器 アトムメディカル NeoBlue2台、 酸素濃度測定装置 Radiometer ABL90Flex 1台、 経皮的酸素分圧監視装置マシモ Radical 7台、 血液ガス分析装置、電解質定量検査装置、 心電図モニター装置、など

(注) NICUは12床で届出、但し看護スタッフの配置数から3名夜勤が上限のため9床で運用中

② 医療従事者の状況

職種		R4.1.1 現在			R4.10.1 現在		
		常勤	非常勤	計	常勤	非常勤	計
産婦人科	医師	7 (うち育休1名)	1	8	6 (うち育休1名)	1	7
小児科	医師	7 (うち時短勤務2名 含め宿直免除3名)	4	11	8 (うち時短勤務1名 含め宿直免除3名)	4	12
6階北病棟 (産科周産 期科)	看護師	11	0	11	8	1	9
	助産師	12	4	17	14	6	20
NICU	看護師	19	0	19	19	0	19
	助産師	1	0	1	1	0	1

③ 分娩件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年	19	16	12	20	22	33	23	29	31	32	25	24	286
2020年	28	31	22	25	29	24	25	24	27	22	23	21	301
2021年	29	30	21	23	28	29	20	22	22	32	25	35	316
2022年	31	22	27	20	28	33	29	28					

④ 母体搬送件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年	0	1	2	1	2	3	3	2	5	3	1	0	23
2020年	1	3	3	6	0	3	3	2	3	4	3	1	32
2021年	5	4	6	7	7	4	6	4	4	3	3	5	58
2022年	2	3	7	2	5	5	4	5					

⑤ 産婦人科 紹介件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年	43	41	61	79	61	76	69	76	66	65	45	73	755
2020年	61	46	59	50	65	75	86	61	72	86	60	69	790
2021年	67	59	74	65	74	63	66	74	86	65	64	88	845
2022年	68	57	78	70	61	65	67						

⑥ NICU入院件数

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年	7	7	7	10	16	21	17	19	19	21	16	18	178
2020年	14	14	11	15	19	11	21	14	15	20	13	12	179
2021年	28	20	15	17	22	21	12	13	11	20	17	19	215
2022年	16	12	18	16	20	19	12	17					

【うち、院外出生の件数】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年	0	0	0	1	1	2	1	2	4	4	2	4	21
2020年	0	3	3	1	0	3	3	1	0	0	0	1	15
2021年	4	0	1	2	3	2	1	2	1	0	0	2	18
2022年	0	0	2	1	2	1	0	1					

【うち、人工呼吸器管理の件数】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2019年	1	3	0	3	1	2	1	1	1	2	1	1	17
2020年	0	2	3	1	1	2	0	0	2	3	2	0	16
2021年	5	1	0	2	2	1	1	1	2	2	1	1	19
2022年	3	0	2	1	1	1	2	1					

⑦職員の人材確保、教育体制

当院はインバウンド診療、母体精神疾患合併妊娠、貧困など要支援家庭をはじめとした社会的ハイリスク症例が多く、医師・看護師に加え医療通訳、臨床心理士、ソーシャルワーカーを含めた対応での診療を行っています。

医師の専門医教育に関して、現在小児科学会、産婦人科学会の専門医研修施設に認定されています。地域周産期母子医療センターの認定後は、周産期新生児医学会の専門医研修施設認定を進めたいと考えています。

助産師の確保につきましては、令和4年1月時点で14名の助産師が在籍しておりましたが、採用活動に力を入れ令和4年10月には4名増員し18名となっています。さらに令和5年4月に3名の新入職が加わり21名となる予定です。また、当院の看護師から助産師を志望する者への支援として、医師の推薦状を持たせる、修学資金を貸与するといった取り組みをしています。

その教育につきましても院内では看護師に先立ち助産師のためのクリニカルラダーを活用し人材育成をしており、新人においては三重県立看護大学の新人助産師研修に毎年参加をしています。令和4年度におきましては三重県の看護師キャリアアップ支援事業に参加し、助産師の実践能力の強化と就業先の偏在是正を目的として助産師を地域の産科クリニックに約一か月間出向させており今後も継続して取り組みたいと考えています。

地域のコメディカル教育については、現在、院内で新生児蘇生法講習会(NCPR)を院内の看護師、助産師、研修医を対象に年6回定期的に開催しています。今後は、他院のスタッフを含めた開催、救命救急士が対象のPコース(病院前)の開催も計画しています。

3 地域との連携体制について

近年、医療圏内の分娩取扱施設の増減がありました。新規開業の病院、医院とも良好な連携が取れています。ハイリスク妊婦の外来紹介、母体搬送、新生児搬送、健診において連携が図れています。今後はプレネイタルビジットや出生前コンサルトについてもまず地域内で受信できる体制を整えていきます。

4 災害対策について

災害対策については、令和元年10月に事業継続計画を策定しました。停電対策としては、ほぼ通常時の発電容量のある自家発電機を外来棟(5階建)の屋上に保有し、3日程度のA重油を備蓄しています。地域の民間業者と災害時の優先的な供給協定も交わしています。水の確保については、節水をしながら3日分の容量の受水槽を保有、加えて桑名市と給水協定を交わしています。